

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【社会還元加速プロジェクト「きめ細かい災害情報を国民一人ひとりに届けるとともに災害対応に役立つ情報通信システムの構築」】

- (1) 20116 : 災害情報通信システムの研究開発等 (総務省)
- (2) 20610 : 消防防災分野における ICT 活用のための連携推進事業 (総務省)

1 日時 : 平成 22 年 8 月 31 日 10 : 30 ~ 10 : 50

2 場所 : 中央合同庁舎 4 号館 2 階共用第 3 特別会議室

3 聴取者 : 奥村議員、
外部専門家 5 名 (うち若手 2 名)

4 個別施策及び説明者 : 総務省情報通信国際戦略局 技術政策課研究推進室 山内室長
総務省消防庁消防大学校消防研究センター 地震等災害研究室
細川室長

5 施策概要

(1) の開発では、ゲリラ豪雨等のきめ細かいリアルタイム監視・予測に必須となる次世代ドップラーレーダーの詳細設計並びに当該レーダーの観測運用技術およびレーダーシステムの開発を行う。(被災現場等における災害関係機関が用いるブロードバンド移動通信システム(災害対策通信)に関しては、調査検討及びそれを踏まえた技術基準の制度整備が完了。)

(2) の事業では、平成 22 年度までに開発した「ユビキタス火災報知システム」と「警報・防災情報可視化システム」の実証実験を行う。さらに、センサーシステムからの情報を、応急対応支援・訓練システムに活用するための研究開発を開始する。

6 質疑応答模様

【奥村議員】消防庁で進めている事業が達成したら、どのような効果が得られるか、期待値を検討しているのか？

【総務省】定量的な評価はできていない。火災報知器などのセンサー情報から、管内の火災状況がわかると消防の初動対応に活用できると思う。平成 23 年度以降は消防研究センターの研究課題である「大規模災害時の対応力強化のための情報技術の研究開発」とリンクしてこれらの活用方法を検討する。

【外部専門家】次世代ドップラーレーダーと、国土交通省が設置している X バンドレーダーとの役割分担や使われ方の検討はどの程度進んでいるか

【総務省】役割分担まではまだ議論していない。これが使える場所は全国ではなく、都市域等に限定されると思っている。この次世代レーダーは計測が短時間でできるという特徴がある。国土交通省や地方公共団体とこれから意見交換したいと考えている。

【外部専門家】これらの先進技術は中国等の途上国に持っていくことは可能か

【総務省】フェーズドアレーというのは防衛技術にもなり、難しいかもしれない。しかし、ニーズという点では日本だけではないと言うことがあるので、是非視野に入れたいと思

っている。

【外部専門家】国際貢献にも使えるような方向も検討頂けたらと思う。

【外部専門家】シームレス測位・地理空間基盤は消防の分野だけでなく、他の分野でも使うことができるのではないか。

【総務省】地下空間で活動する消防隊員を対象にしているが、ハード整備の問題でなかなか進んでいない。消防だけでなく他の分野も入ってもらって研究を進めている。

【奥村議員】レーダーの話開発について、平成 24 年度に実証実験について書かれているが、技術的なスペックの検証だけでは不十分であり、この技術を生かすことが必要。気象庁や国交省と活用方法をぜひ議論して欲しい。

【総務省】承知した。潜在的ユーザの方々と意見交換の場を持っているので、実証実験までニーズを拾い上げ、目的としているものが果たせるかどうか検討したい。

以上